

未来の話をしようか

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



未来の話をしようか

#72 夜の話





それだけじゃないよ……

海だ

商人が一生かけても
取り尽くせないほどの
巨大な塩の湖がある

壁の外にあるのは
巨人だけじゃないよ

炎の水

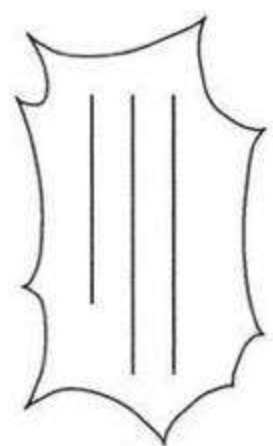
氷の大地

砂の雪原

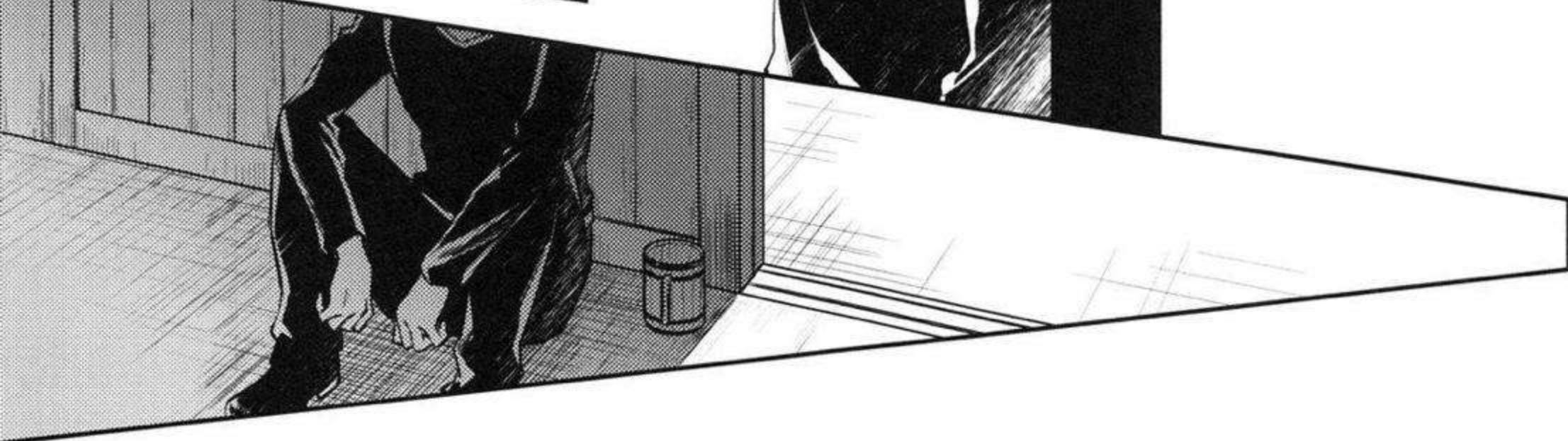
それを見に
行くために
調査兵団に
入ったんだから



約束だからね!?
絶対だよ!?



だから!まずは
海を見に行こうよ!!



何のため

巨人共を
一匹残らず
絶滅させるためだ

このドブ臭え
壁の中から
出て――

……それから？

その先は――









今はそんなに
言わないけど

リヴァイと
関係を持った
当初はさ

まわりにけっこう
言われたんだよね

「この先どうするんだ」
「けじめはつけるのか」
まあ目上からの
お決まりの台詞をさ

そうなるのが
自然っていう
意見もわかるけど

君からは
言い出さない
だろうなって……

私からも
言い出し
にくかったし

だってほら……

リヴァイの姓
わからなかったし



ただの
「リヴァイ」

ずっと
そうだったから





はは、そうだね
蓋を開けてみれば
単純な話だったけど

私は勝手に
想像の翼を
広げたよ



なにか深い訳が
あるのかなって
思った時期も
あったよ

なにもねえ
知らなかった
だけだ

うーん



ただの
「リヴァイ」



君は名前まで
自由なんだなって



半分
当たってたかな

君は君として
自由でいるために

知らされて
なかったんだね



リヴァイ・
アッカーマン

前王政が
倒れた今――

名前が
知れ渡ったと
しても

君の行動を
阻害する者は
誰もいない

君に名を
告げなかった人も

今なら君に
教えたかもね

ああでも
リヴァイは
名前がどうで
あろうと

自由に生きることが
できるよね

実際そうだったし

あれ？なんだか
静かだね
リヴァイ

ごめんまた
勝手な推論
だったね

……いや

悪くねえ
考えた



俺はケニー…
…ただのケニーだ

あなたはリヴァイ…
…ただのリヴァイ



私の可愛い
リヴァイ……



……悪くねえ



今となつては
何一つ
わからねえ

覚えてることも
数えるほどしか
ねえ――

だが……

そうだとすれば――







書いてみたら
恥ずかしくて
いやっ!!!
もう!!!



私もやっぱり
女だったよ!!!



照れるっ!!!

あー

きゃ

あぁ



い……やいや
こういうのは
勢いが大事だよ

明日、
早速出しに行こう





そういえば……

文字にするのは
初めてか

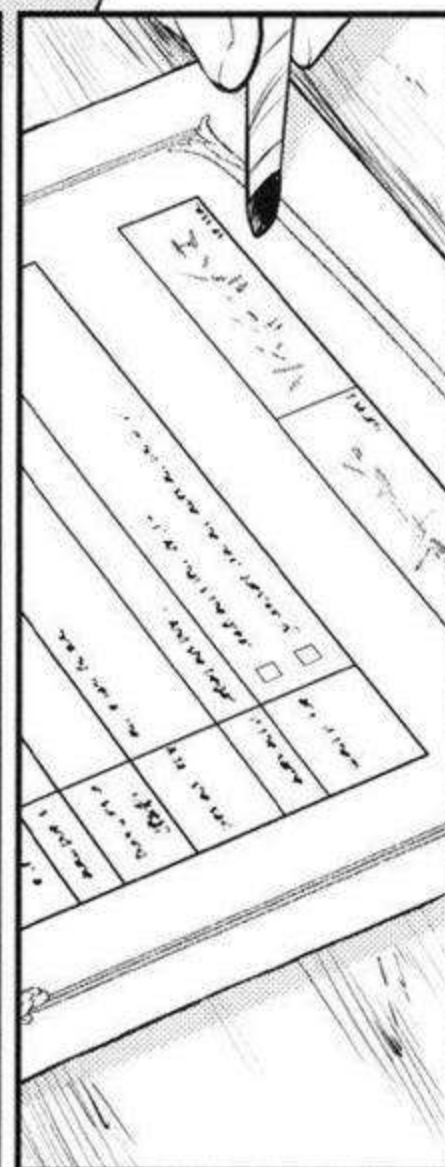
俺の——名前

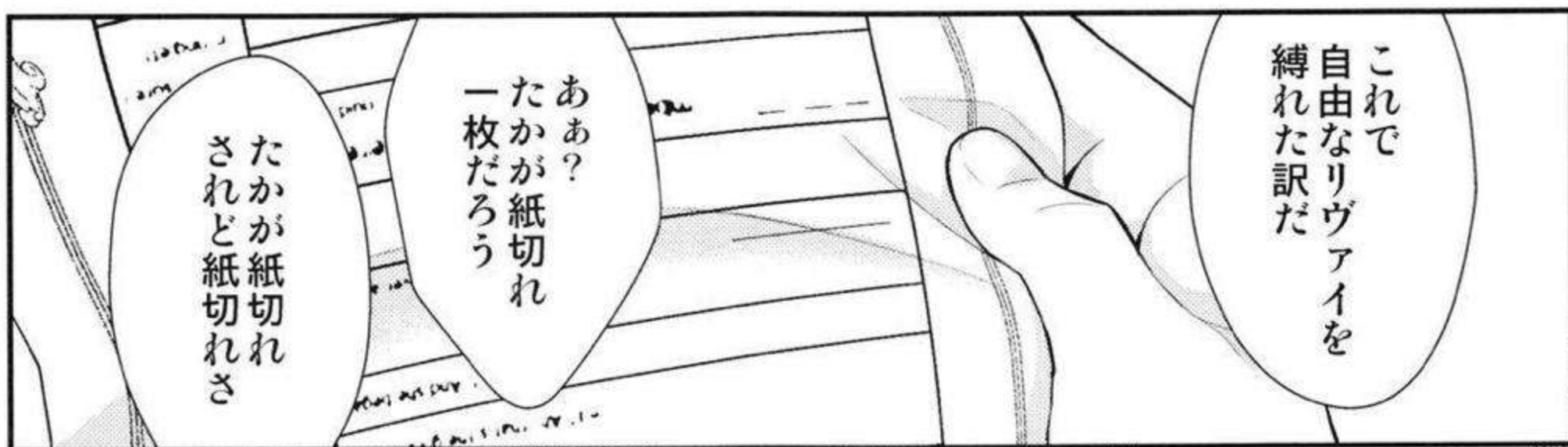
覗き込むな

いいじゃないか
あ、ドキドキ
しちゃってる？

スペル間違える
かもとか的な
ことじゃなくて
愛の昂りっぽくさ

黙れ





私の親への
結婚の挨拶☆



許しを
請う的な？



「お宅のお嬢さんを
俺に下さい」って
申し込んで



しびれおつて
「うんうん」だよ

リウアアイ♡



とんでもねえ
紙切れだな

あはは
確かにね

君は素敵な
人類最強兵士だし
心配することなんて
何にも無いよ?



誓約か

そう、誓約
……約束

誓い



なんだ
それ

えくひどいな
「リヴァイ・ゾエ」は
もっと変だよ?

リヴァイの姓が
わからない時は
そうなるのかなって



は……はは
そうか……私

ハンジ・アッカーマンに
なっちゃうんだね

あはっ
変なの

……そうだな



リヴァイ・
アッカーマン

ハンジ・
アッカーマン



想像してみたけど
ないな……って
一人で笑ってたよ

てめえの方が
ひどくねえか

まあ確かに
語呂は最悪だがな

そうだよな



こんな紙切れ
一枚で

同じ——姓



ふふ……
改めて
言葉にすると
照れるね

実際、随分前から
そういう状態だし
何も変わらないけど

……そうだな

……んっ

それぐらい
抱いたしな

ほんと……にね

よく飽きないなって
思うよ
お互いに……さ

うッ……あ

「なんのために」

「そのあとは」

「いつか」

「未来」

あ……



一人で考えても
意味がねえ――



俺一人だけの

未来じゃない――



…んんっ

ん…っ



腰浮かせる

うん…

え…へへ

なんだお前
もらしたみてえに
なってるそ

準備万端なんだ
感謝してよ

てめえ
あの紙切れに
感じてやがったのか

あはは
そうだね
滾ったよ

紙に負けないでね
リヴァイ

ああ？

んあ…

う……っ

うツ……あ

い……挿れてよ
リヴァイ

はええぞ
オイ



だって……
リヴァイが今すぐ
欲しいんだよ――



あ……準備
できてない……？

いや
問題ねえ



い
挿れるぞ

っ……あつ

やっぱ……
お肉パワー
すご……いよ

お前もな
吸い付いて
来やがる

だって
リヴァイが……

的確に
責め……て

あつ

ん……ああつ
そっダメツ





その瞬間
いきそうに
なったよ

だから……さ

運命……とか

ついに来るべき時が
来たんだな——とか

タイミング
良過ぎだろ？

柄にも無く
そんなこと
感じちゃったよ



私は君のモノで
君は私のモノ

もつと体に
感じさせてよ

ねえもつと
おくれよ

もつと
イかせてよ



じゃあ次は
後ろから
突いてよ

お肉パワー
つまりは獣!!!

後背位!!!



……わかった



くだらねえが
いいだろう

グッ

ケツ向けろ



もつと
ケツを突き上げろ

もつとだ

もつと——

こゝ
これ以上は
無理だよ

ん……っ

…んんっ

リ……リヴァイ
それより早く——

ヒクついて
いやがる

しゅわ
しゅわ

そんなに
欲しいのか

はは……
その通りだよ

いまさらだけど
じっくり見られると
恥ずかしいよ

ねえ
見てるだけじゃなく……さ

早く挿れてよ
リヴァイ

リヴァイ……

リヴァイ

リヴァイ





——まだ
提出してねえ

気分の
問題だよ

はは

結婚して初めての
行為——
初夜だ……よ？

クソッ

一人で
盛り上がるな

あああッつ!!!



ん……あぁっ

あッ!!!

あっつ……!!!

あッッ

ウッ!!!

っ……あッ





ふふ……

そりや
盛り上がるよね

ほんの少し前まで——
エレンが私たちの前に
現れるまで

私たち調査兵団は
ただ闇雲に戦ってた

壁外の進行ルートを
確保する地道な作業に
自分と仲間の命をかけて



でも
今は違う

巨人の謎が
次々解明され
封印された技術も
手に入った

犠牲を一人も
出さずに
巨人をしとめる罠

巨人になり
敵性巨人の
力を奪う
薬さえある



ああ、昔の自分に
言いたいよ——

壁外調査なんて無駄だ
巨人に餌を与えるだけだって
言われ続けて

ただそれに
耐えるしか無かった
あの頃の自分に——

「未来は変わらない」
そう断言することは
誰にもできないって





はは

リヴァイとするのは
毎回気持ちいいから
いつも以上に滾るね

さすが怠惰な人類を
繁殖させるための
神の采配



何の話だ？

あれ？
前に話さなかったっけ
人は面倒なことを
進んでしないからね
故に性行為は
気持ちいいって説

おかげで人類は
爆発的に繁殖
地表をおおい尽くす
程にね

あ、
排泄も同じ原理

毒素を
出すため

クソと
同じにするな

え、
リヴァイにとって
私のお尻の穴は
性行為の対象だろ？
同じだよ

……

ねえ
繁殖しようか

まあ
避妊薬飲まずに
待つだけだと

あはは

さすがに
戸惑うよね



でも
結婚したんだし
自然な流れだろ

できるかどうかは
神のみぞ知る

ふふっ

—
欲しいのか

んゝ出産は体験して
みたいかな
女としてその能力が
あるんだからさ

私の体内で
新しい命が
芽吹く—

凄いよね

今までは
見送るばかり
だったから—

—



心配しなくても
リヴァイはいい
父親になれると思うよ

読むな
考えを



リヴァイは育ちと
怖い顔のわりに
結構優しいし
面倒見もいいし
心配りもできる

エレン達104期生との
やり取り見てて
確信したよ
私よりよっぽど
向いてるってさ

その点は
私の予想の範疇を
遥かに越えてたね
以外だった

.....それは多分

俺にも……

親に愛された
記憶が――

その確信が
あるからかも
しれねえな



そう……なんだ



——っ!!!
泣くな

よかった……
よかったよ



何故お前が
泣く

だいや
だって……

……だってさ

「いつか話す」って
リヴァイ……
言ってくれたから

ああ
そうだな

だから……
だからさ

ずっと待ってた……

でもさ……実は
不安だったんだ
どんな話が
飛び出すんだろうって

思ってもいなかった
優しい話でさ
……嬉しいよ

……お前になら

どんな過去でも――

ん？
何か言った？

お前は俺に
くれたからな

え？
なんだっけ
体とか？

それだけじゃ
ねえ

……いろいろだ



……そうか

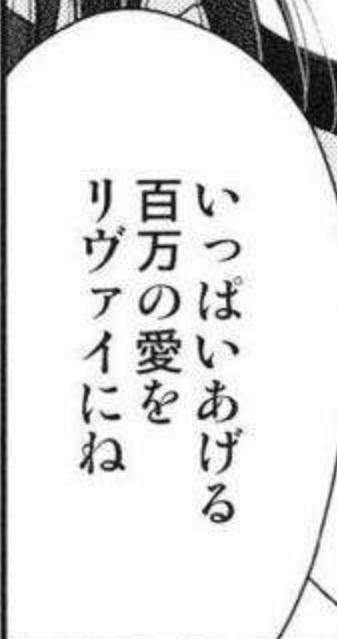


そっか——
でもまだまだだよ



だ、だからさ
もっともっと
教えてよ

聞きたくて
すっごい我慢
してたんだからさ



いっぱいあげる
百万の愛を
リヴァイにね



家族のことだもの
いっぱいいいっぱい
全部知りたいよ



そういう誓約
—
なんだから

[illegible]

この本はいつも通り、原作のコマとコマの間に
こんなことがあったらいいな～的な妄想を形にした物ですが
最近の原作の激動&厳し過ぎる展開に興奮しつつも
し、幸せな時間があって欲しい……………！！という
願望、逃避思考が激しく追加されています。
そんなわけで、妄想が暴走して、自分にしては糖度高め？
めいっばいいろいろ詰め込みました。詰めすぎたかもしれません
でも個人的には満足しています
イチャイチャして欲しかったのです！！

冒頭のエレン達を見守る兵長はいろんなことを考えてるだろうな……
……………と、わかってはいても
リヴァハン脳になっているので、リヴァハン展開です
原作の兵長はいろいろ考えていると思います
私ごときでは推し量るのが難しいほどに。

……………
ああ、原作早くリヴァハン合流して並んで立ってくれないかなー
とかそんなことを思いつつ
読んで下さってありがとうございました！

2016.7 マミヤ

未来の話をしようか

Levi × Hanz

Attack on Titan unofficial fanbook no.28

MAMIYA[RIX] PRESENTS

2016.8.12

WEB ; <http://rix.vv.cx>

MAIL ; m@rix.vv.cx

PIXIV ID = 464880

PRINT ; Kanazawa printing

※ 無断転載 複製 ネットオークション、フリマアプリ等の出品厳禁

※ 18歳未満の閲覧厳禁

当同人誌は18歳未満、同人誌に理解の無い方の手に渡ぬよう

所有者が所持、廃棄に責任を負って下さい



Levi × Hanz

Attack on Titan
unofficial fanbook no.28
MAMIYA [RIX] PRESENTS
2016.8.12

未来の話をしようか

未来の話をしようか

R I X

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

Levi × Hanz

Attack on Titan
unofficial fanbook no.28
MAMIYA [RIX] PRESENTS
2016.8.12